

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 サボ・ゼミ				公表日	2026年 3月 25日
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		個別支援の為、利用者様が圧迫を感じない利用数で支援しています。学習スペース、遊びのスペースを完全に分けて支援にもメリハリをつけています。	利用者様のニーズに合わせその都度見直ししていきます	
2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		6		個別支援の為、利用者様が圧迫を感じない利用数で支援しています。学習スペース、遊びスペースに常に職員を配置しております。	・職員の突発休や離職の理由で1人の負担が大きい為職員の増員予定 ・職員の離職時期が重なり、保護者様や利用児童様に不安を与えてしまった→職員の増員と職員の顔写真入りのお便りをお渡し、職員を周知させます		
3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		6		学習スペース、遊びスペースを完全に分けており、段差がない十分な歩行スペースを確保しています。事業所内はトイレを含めバリアフリーになっております。	個別スペース荷物入れ・机・椅子を配置し、個別活動がしやすいように整えています。遊びのスペースはおもちゃを配置。児童が迷わないように、個別、遊びのスペースを完全に分けています。		
4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		6		安全で清潔な環境を保つため、毎日事業所内、外の清掃を徹底しています。児童が使用するツール等は日に数回消毒し清潔で安全な環境を心掛けています。	毎日清掃し、アルコール消毒を行い清潔な空間を維持しています。		
5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		6		個別支援をしておりますので、すべての利用者様に個別スペースをお使いいただいております。	個別スペースに圧迫感はないが、遊びスペースは怪我等の要因になるものはないか、今後も常に点検いたします。		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		打合せ、振り返り、情報共有ノートにて情報を共有し随時、支援を見直ししています。	毎日の打ち合わせ、振り返り、情報共有ノートにて利用者様の状態を確認、共有しています。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	保護者様とは機会に応じて意向を確認させていただいております。ご本人の気持ち、状態を大切に支援に反映させております。	保護者様と本人同席のもと、本人意向を大切に支援していける環境作りが課題です。日程の調整(保護者・本人・事業所)に計画的に取り組んでいきます。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日の打合せ、振り返り、共有ノート、職員会議にて職員の意見の把握を心掛けています。また定期的に、職員と1on1面談を行っております。打合せ時に発言できなかった職員にも意見や考えを必ず発言する機会を設けております。	多職種の集まりであるので各職種の専門性を活かした気づきを大切に業務改善に努めます。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5	事業内容と年度初めに事業内容の説明と年度末に報告のみでしたが、次年度は評価を元に業務改善に努めて参ります。	第三者からのフィードバックを行い業務改善につなげ、利用者様、職員の満足度を高めるように努めて参ります。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		札幌市からの研修案内は職員間で回覧にて周知しています。	市より研修会参加、西区の研修、ちえりあの研修に参加予定です。		
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		今年度の公表完了しております。	次年度も支援プログラムを念頭に置きながら個別支援に励み、見直し回って公表予定です。		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		モニタリングを経て、個別支援計画の作成、見直しを図り、原案をもとに保護者様のニーズや課題を把握に努めております。	引き続き、児童の理解に多角的に取り組みチームワークで研鑽していきます。		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		多職種でそれぞれ多角的に児童理解に努め、共有し、子供の最善の利益を追求していきます。	引き続き児童の理解に多角的に取り組み。チームワークで研鑽していきます。		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		職員1人ひとりが支援前に個別支援計画を連絡・確認しています。また朝のMTGにて児童の状態を共通理解に取り組んでいます。	日々の児童の様子を加味し個別支援計画と合わせて支援を行っていきます。		
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		保護者様からいただいたアセスメント(フォーマル)と日々の記録を合わせた(インフォーマル)情報共有し、支援しております。	インフォーマル(日々の支援の記録)での児童の理解を深め、子どもの適応行動に導く支援を導きがちで、今後フォーマルなアセスメントも双方を活用して支援していく。		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		個別支援計画にはガイドラインの則り、全ての項目と具体的な生活支援方法を設定、そのうえで支援を行っています。	児童の成長に合わせて、適時個別支援計画の見直し更新していきます。		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		児発管、児童指導員、保育士、心理士と多職種で議論、多角的に児童を理解し最適な活動プログラムの立案をしている。	児童の活動に向かう姿を評価・共有し活動プログラムに目指し、今後より良いプログラムを目指して参ります。		
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		個別支援計画に沿って、支援し児童の行動観察を評価。余暇の遊びの部分で児童のその日の意向に沿った活動を行っております。	日々の児童の行動を観察・記録し評価を随時行う。記録とフォーマルなアセスメントし個別支援・遊びに工夫し児童が取り組みやすくしていきます。		

関係機関や保護者との連携	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		一人ひとりにあわせた個別支援と遊びの部分的集団支援を組み合わせた支援を行っています。	今後も引き続き個別支援と集団支援を組み合わせた支援を提供していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎朝打合せ・振り返りを行い情報共有や勉強会を行っています。チームで支援の役割を変えて取り組んでいます。	毎日打合せ・振り返りを行い情報共有や勉強会を行っています。チームで支援の役割を変えて取り組んでいます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		毎日、打合せ・振り返りを行っています。職員全員で情報共有しチームで支援の役割を変えて取り組んでいます。	毎日、打合せ・振り返りを行っています。職員全員で情報共有しチームで支援の役割を変えて取り組んでいます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々の支援記録は毎日記録している。また職員間で共有しいつでもみられる状態を継続。記録をまめに閲覧しお互いの情報を共有している。	引き続き抜けなく記録をとりお互いを注意していく。また、支援の検証、改善に繋げていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		毎日一名ずつモニタリングを行っています。職員全員が参加し、多職種の意見を取り入れチームで児童の情報共有、支援の見直しに全員で取り組んでいます。	引き続き、毎日一名ずつモニタリングを行います。職員全員が参加しチームで支援の見直し児童の情報共有に取り組んでいきます。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		個室・遊びの選択が出来るよう声掛け、児童の意向を丁寧に把握しています。また、スケジュールを児童自身で立ててから活動に取り組んでいます。	今後も引き続き丁寧に取り組んでいきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	児発管・管理者（児童の総合的な情報を持っている）が児童発達支援事業所のケース会議に参加。また相談支援事業所とは適宜、電話・訪問による情報提供を指しています。	引き続き積極的に参加致し、連携体制を更に高めていきます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3	区の保健所とは電話や訪問を通して情報の共有を図っています。近隣協力医とは適宜、協力を仰いでいます。また、利用児童の教諭こども園教諭とは密に情報共有を図っています。	引き続き関係機関と連携を図っていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	利用していた保育園・こども園・他デイサービスと児童の環境が変わった時点で情報共有を図っています。また1か月後の児童の様子を電話にてお伝えしています。	今後も引き続き関係機関と連携を図っていきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	2	地域の児童発達支援センターのコーディネーターのスーパーバイズを受けて支援に生かしています	今後も引き続き地域の児童発達支援センターのコーディネーターのスーパーバイズを受けて支援に生かしていきます
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	4	今年度は、交流する機会を設けることができなかった。交流する機会を計画していきます	次年度は、交流する機会を計画していきます
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		日々保護者様に、フィードバックの時間を設けています	今後も日々保護者様に、フィードバックの時間を設けます
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	・今年度は、家族に対してのプログラムや研修を設けることができませんでした ・プログラムとして確立していないが、適宜対応している	次年度は、家族に対してのプログラムや研修を計画いたします
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時・個別支援計画説明時・フィードバックの際に、丁寧に説明しております	引き続き、契約時・個別支援計画説明時・フィードバックの際に、丁寧に説明いたします
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		原案を作成し、説明。再度保護者様・児童の意向を聞き取り見直し、児童の最善の利益を考慮し、作成しています	引き続き、原案を作成し、説明。再度保護者様・児童の意向を聞き取り見直し、児童の最善の利益を考慮し、作成していく。また、適宜、職員と情報を共有し見直しを図ります
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		原案を示し、説明を行っている。見直し後、再度説明し保護者様の同意を得ています	引き続き原案を示し、説明を行っている。見直し後、再度説明し保護者様の同意をいただきます
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		適宜、面談で対応している。特に児童の様子で気になることがあった場合は、こちらから面談のアポイントをとって、相談に応じます	引き続き適宜、面談で対応していきます。特に児童の様子で気になることがあった場合は、こちらから面談のアポイントをとって、相談に応じます

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4	・保護者様に向けた（前回はお父様向け）情報共有の機会を設けましたが、（通信にて日時・内容発信、個別に声掛け）参加者があまり集まらずでしたので、次回は利用者様全員にご参加いただける内容をご提案してまいります。	・保護者様に向けた（前回はお父様向け）情報共有の機会を設けましたが、（通信にて日時・内容発信、個別に声掛け）参加者があまり集まらずでしたので、次回は利用者様全員にご参加いただける内容をご提案してまいります。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		相談・面談は、迅速に対応している。また、相談の手続きを周知してきました	相談・面談は、迅速に対応している。また、相談の手続きを更に整理し周知していきます
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		通信は、月一度発行している。また、SNSにて、子どもの活動を紹介しています	引き続き、通信は、月一度発行します。また、SNSにて、子どもの活動を紹介いたします
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報の取扱いは、社内ルールにのっとり徹底しています	引き続き、個人情報の取扱いには細心の注意払い毎日管理者が確認し取扱います。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		LINEを使った連絡手段を昨年より追加致しました。お忙しい保護者様へもいつでも確認していただけるツールとして使用しています。保護者様には使いやすい手段（電話・メール・LINE）等から選択し、連絡できるような配慮しています。	引き続きLINEを使った連絡手段を活用し、保護者様の使いやすい手段（電話・メール・LINE）等から選択し、連絡できるような配慮していきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わられた事業運営を図っているか。	3	3	近隣高齢者施設に利用者を招待しています	引き続き近隣高齢者施設に利用者を招待していきます
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	各マニュアルを作成し、職員・家族に周知しております。また、火災（六月）、地震（10月）不審者対応（12月）の訓練を実施しております。実施の際は通信でお知らせしております。	引き続き定期的に避難訓練を実施致します。実施の際は保護者様へお知らせいたします。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		BCPを策定し火災（六月）地震（10月）不審者対応（12月）の避難訓練を実施致しました。	引き続き、定期的に避難訓練を実施し災害時や緊急時に備えます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	1	保護者様からアセスメント、情報を一覧にし、職員一同で周知しております。	再度保護者様からアセスメントを取り情報を更新し職員間で周知致します。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	地域の児童発達支援センターのコーディネーターのスーパーバイズを受けて支援に生かしています。	引き続き、細心の注意をし職員間で周知していきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		避難場所の周知、非常時の手順、安全に児童を引き渡しを行う為、ご家族の写真をファイリングし児童の情報を職員間で周知しております。	引き続き安全管理を徹底していきます。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		避難場所の周知、非常時の手順、安全に児童を引き渡しを行う為、ご家族の写真をファイリングし児童の情報を職員間で周知しております。	引き続き安全管理を徹底していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	・まだ事例がないので行っていない ・ヒヤリハット・インシデントになりうる情報を防止するために職員間で日々共有しております。	情報を日々共有し、記録をファイリングしております。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止委員会による研修を行う。また、外部の虐待防止研修に参加いたしました。	次年度も虐待防止委員会による研修を継続致します。外部の研修に参加予定です。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	3	該当児童（身体拘束を必要とする）がないため、個別支援計画には記載しておりません。	該当児童が利用になった際は保護者様、児童に丁寧に説明を行うとともに個別支援計画に記載致します。	